

ルーマニア

Romania

	2010年	2011年	2012年
①人口:1,904万人 (2011年10月の国勢調査に基づく 暫定値)			
④実質 GDP 成長率(%)	△ 1.1	2.2	0.7
⑤消費者物価上昇率(%)	6.1	5.8	3.3
⑥失業率(%)	7.3	7.4	7.0
②面積:23万8,391 km ²			
⑦貿易収支(100万ユーロ)	△ 6,965	△ 7,791	△ 9,628
③1人当たり GDP:7,935米ドル (2012年)	△ 5,492	△ 5,937	△ 5,151
⑧経常収支(100万ユーロ)	43,361	42,939	41,162
⑨外貨準備高(100万米ドル, 期末値)			
⑩対外債務残高(グロス)(100万ユーロ, 期末値)	72,910	75,929	78,717
⑪為替レート(1米ドルにつき, レイ, 期中平均)	3.1779	3.0486	3.4682
⑫為替レート(1米ドルにつき, ユーロ, 期中平均)	0.755	0.7194	0.7783

【注】⑤:年平均, ⑦⑧:国際収支ベース, ⑦:財のみ

【出所】①②④⑥⑦:ルーマニア国家統計局, ③⑨⑩⑫:IMF, ⑤⑧⑩:ルーマニア中央銀行

ルーマニアの2012年の経済は0.7%成長と2年連続のプラス成長となった。輸出と輸入は機械・電気機器の減少により、ともに前年比0.5%減少となった。対内直接投資は前年比6.6%減の約17億ユーロで、4年連続の減少となった。対日貿易は輸出増により貿易赤字が46.6%減少した。日系製造業の新規進出は1件あり、既進出企業による工場拡大の動きも一部でみられた。

■ 情報通信の大幅増が GDP に貢献

2012年の実質 GDP 成長率は0.7%と、2011年の2.2%から減速したものの2年連続のプラスを維持した。GDPの内訳を需要項目別にみると、国内総固定資本形成と消費(個人、政府含む)の寄与が大きい。国内総固定資本形成が前年比4.9%増で成長率を支えた。また、対ユーロの現地通貨レイの下落により、ユーロ建てローンの返済額が増大するなどの影響により、民間最終消費支出は1.1%増となった。一方で、外需の減退に伴い、財貨・サービスの輸出が3.0%減少し、経済成長を押し下げる一因となった。GDPを産業別にみると、情報通信が29.1%増と大幅な増加となった(2011年は1.0%増)。外資系企業による事業拡大のほか、第4世代(4G)高速移動通信サービス向け周波数帯の入札があった。一方で、農林水産業が21.6%減と大幅に減少した。歴史的な干ばつにより、農業生産額の3分の1以上を占める穀物の生産量は39.1%減の

1,270万トンだった。工業は、欧州市場の冷え込みにより生産活動が低下し、1.0%減と3年ぶりのマイナス成長に転じた(2011年は0.1%増)。

企業倒産は前年比93.0%増の2万2,500社と急増したものの、就業率は2011年から1.9ポイント上昇し、失業率は2011年の7.4%から7.0%にやや改善した。消費者物価上昇率は、国際的なエネルギー価格および農産物価格の上昇にもかかわらず、前年より2.5ポイント低い3.3%となった。

2013年第1四半期の実質 GDP は、前年同期比2.1%増だった。政府は、2013年の実質 GDP 成長率を1.6%と見込んでいる。

■ 乗用車輸出は増加したが、電話機は半減

2012年の貿易は、2011年まで2年連続過去最高を記録した輸出が前年比0.5%減の450億5,600万ユーロ、輸入は0.5%減の546億8,400万ユーロと輸出入ともに減少した。貿易赤字は前年比0.5%減の96億2,800万ユーロとなり、2011年に増加した貿易赤字は減少に転じた。

輸出を品目別にみると、最大の輸出品目である機械・電気機器(構成比25.3%)は、前年比6.5%減だった。中でも、電話機が55.6%の大幅減少となり音声・映像・録音機器(15.8%)の13.5%減につながった。一

表1 ルーマニア主要経済指標

	2011年	2012年	2012年			
			Q1	Q2	Q3	Q4
実質 GDP 成長率	2.2	0.7	△ 0.1	0.6	△ 0.2	0.4
民間最終消費支出	1.1	1.1	△ 0.2	0.3	0.4	0.4
政府最終消費支出	△ 0.3	2.4	△ 4.9	1.3	7.7	△ 10.0
国内総固定資本形成	7.3	4.9	1.8	0.4	0.4	△ 1.7
財貨・サービスの輸出	10.3	△ 3.0	0.0	△ 2.4	△ 2.9	0.1
財貨・サービスの輸入	10.0	△ 0.9	△ 0.6	0.3	△ 0.7	△ 2.6

【注】四半期の伸び率は前年同期比かつ季節調整値。

【出所】ルーマニア国家統計局データから作成

表2 ルーマニアの主要品目別輸出入

	輸出					輸入			
	2011年		2012年			2011年		2012年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
機械・電気機器	12,212	11,413	25.3	△ 6.5	機械・電気機器	15,088	14,492	26.5	△ 4.0
輸送用機器	6,508	6,835	15.2	5.0	鉱物	6,657	7,101	13.0	6.7
金属・同製品	5,559	5,134	11.4	△ 7.6	金属・同製品	6,206	5,841	10.7	△ 5.9
繊維・同製品	3,617	3,619	8.0	0.1	化学製品	5,455	5,675	10.4	4.0
鉱物	2,676	2,604	5.8	△ 2.7	輸送用機器	4,195	4,088	7.5	△ 2.5
プラスチック・ゴム製品	2,496	2,561	5.7	2.6	プラスチック・ゴム製品	3,967	3,913	7.2	△ 1.4
化学製品	2,185	2,394	5.3	9.5	プラスチック製品	2,642	2,716	5.0	2.8
植物性生産品	2,097	1,978	4.4	△ 5.7	繊維・同製品	3,515	3,515	6.4	0.0
合計(その他含む)	45,274	45,056	100.0	△ 0.5	合計(その他含む)	54,948	54,684	100.0	△ 0.5

[注] EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB, 輸入はCIF), EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。
[出所] ルーマニア国家統計局データから作成

方, 輸送用機器(15.2%)は自動車部品が13.4%増加し, 乗用車が7.0%増加したことにより, 品目全体としては5.0%増だった。自動車では, ダチア(フランスのルノー傘下)の完成車組み立て部品の輸出台数(2012年)が48.6%増の約92万台相当だった。ダチアの世界8カ国12工場(ロシア2工場, ブラジル, コロンビア, アルゼンチン, インド2工場, モロッコ2工場, 南アフリカ共和国, イラン2工場)における組み立て生産の需要増加のため, エンジンなど部品の輸出の増加につながった。金属・同製品(11.4%)は, 銑鉄・鋼鉄に含まれる鉄くずの20.4%大幅

減少などにより, 全体で7.6%減少した。輸出を国・地域別で見ると, EU27向けが全体の70.1%を占め, 従来と同様に最大の輸出先であったが, 輸出額は前年比1.7%減少した。中でも, 輸出三大相手国であるドイツ(構成比18.6%)が前年比0.7%減, イタリア(12.1%)が6.2%減, フランス(7.0%)が6.8%減といずれも減少した。この結果, ユーロ圏(51.6%)は3.5%の減少となった。ドイツ向けは気体ポンプが25.6%減, イタリア向けは主要輸出品目であるたばこが17.1%減や履物が7.5%減, フランス向けは乗用車が26.1%減などの減少が響いた。また, ハンガリー

(5.4%)は電話機の37.2%減が響き全体で5.8%減となった。なお, 英国(3.6%)向け輸出は12.0%増とEU27の中では比較的高い伸びを示した。特に医薬品や2011年には輸出されなかった乗用車や気体ポンプなどの増加が目立つ。EU27以外では, トルコ(5.5%)が鉄くずの18.4%減や石油・同製品の65.9%減などにより, 全体で11.6%減となった。なお, 米国(1.9%)向けは鋼管の32.7%増などで全体では7.6%増, 韓国(0.8%)向けはエンジン部品が5倍と大幅に伸びたことなどが牽引し45.3%増加した。

表3 ルーマニアの主要国・地域別輸出入

	輸出				輸入			
	2011年		2012年		2011年		2012年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	32,163	31,601	70.1	△ 1.7	39,944	40,166	73.5	0.6
ユーロ圏	24,099	23,262	51.6	△ 3.5	27,961	28,095	51.4	0.5
ドイツ	8,424	8,369	18.6	△ 0.7	9,405	9,511	17.4	1.1
イタリア	5,800	5,443	12.1	△ 6.2	6,251	5,983	10.9	△ 4.3
フランス	3,380	3,150	7.0	△ 6.8	3,173	3,096	5.7	△ 2.4
オランダ	1,404	1,282	2.8	△ 8.7	1,758	1,920	3.5	9.2
スペイン	1,101	1,108	2.5	0.6	1,260	1,303	2.4	3.4
オーストリア	996	1,031	2.3	3.5	2,198	2,284	4.2	3.9
非ユーロ圏	8,064	8,339	18.5	3.4	11,983	12,070	22.1	0.7
ハンガリー	2,568	2,419	5.4	△ 5.8	4,783	4,916	9.0	2.8
ブルガリア	1,636	1,735	3.9	6.1	1,582	1,535	2.8	△ 3.0
英国	1,448	1,622	3.6	12.0	1,283	1,305	2.4	1.7
ポーランド	1,075	1,087	2.4	1.1	2,173	2,333	4.3	7.3
チェコ	754	812	1.8	7.7	1,348	1,370	2.5	1.6
トルコ	2,786	2,462	5.5	△ 11.6	1,903	1,841	3.4	△ 3.3
ロシア	1,018	1,052	2.3	3.3	2,092	2,391	4.4	14.3
米国	798	859	1.9	7.6	620	813	1.5	31.1
ウクライナ	842	838	1.9	△ 0.5	787	501	0.9	△ 36.3
中国	390	385	0.9	△ 1.3	2,530	2,093	3.8	△ 17.3
韓国	259	376	0.8	45.3	471	394	0.7	△ 16.3
インド	196	213	0.5	8.8	393	367	0.7	△ 6.5
日本	171	213	0.5	24.5	260	260	0.5	0.1
ブラジル	146	171	0.4	17.2	472	357	0.7	△ 24.5
カザフスタン	125	86	0.2	△ 31.3	2,278	2,277	4.2	△ 0.1
オーストラリア	25	26	0.1	5.6	9	18	0.0	104.4
合計(その他含む)	45,274	45,056	100.0	△ 0.5	54,948	54,684	100.0	△ 0.5

[注1] ユーロ圏と非ユーロ圏の合計値がEU27に一致しないのは四捨五入処理のため。

[注2] EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB, 輸入はCIF), EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所] ルーマニア国家統計局データから作成

■ 電話機と鉄鋼の輸入減少が目立つ

輸入を品目別にみると、最大の品目である機械・電気機器(構成比 26.5%)は、前年比 4.0%減となった。減少の要因は、電話機の 39.6%の大幅減にある。一方、鉱物(13.0%)は約 90%を占める石油や天然ガスなど燃料が 7.5%増加したことが、全体の 6.7%増につながった。金属・同製品(10.7%)は鉄鋼製建築資材が 12.9%減、ステンレス鋼が 10.8%減、鉄棒が 14.9%減となったことが響き、全体では 5.9%減だった。

輸入を国・地域別にみると、輸出と同様に EU27 が最大の輸入相手で、輸入全体の 73.5%を占めた。上位輸入相手国であるドイツ(構成比 17.4%)、イタリア(10.9%)、ハンガリー(9.0%)の 3カ国で全体の 37.3%を占めている。ドイツからは、発電機部品が 2.8 倍となったが、電気絶縁ケーブルが 20.8%減、乗用車が 9.3%減となったことにより、全体では 1.1%増にとどまった。イタリアからは、航空機やタービン・ボイラーなど機械機器の減少などにより、全体で 4.3%減少した。ハンガリーからは、トウモロコシの 2.3 倍をはじめ、石油の 24.8%増、天然ガスの 27.3%増により、全体では 2.8%増加した。フランスからの輸入は、ギアボックスが倍増した一方で、気体ポンプが 29.9%減、エンジン部品が 17.3%減、医薬品が 11.9%減となり、全体で 2.4%減少した。EU 域外では、ロシア(4.4%)からが輸入の半分を占める石油の増加により全体で 14.3%増加した。中国(3.8%)からの輸入は主要品目の電話機が 74.2%減少したため、全体で 17.3%減となった。

■ 4 年連続で対内直接投資が減少

ルーマニア中央銀行によると 2012 年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、前年比 6.6%減の 17 億 1,400 万ユーロだった。過去最大(93 億 700 万ユーロ)を記録した 2008 年をピークに、減少傾向が続いている。対外直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、依然として規模が非常に小さく、2012 年は 3,100 万ユーロの引

表 4 ルーマニアの対内直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位:100 万ユーロ)				
2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年
9,307	3,550	2,234	1,835	1,714

〔出所〕ルーマニア中央銀行

き揚げ超過だった。

対内直接投資について中央銀行および統計局は、ともに 2012 年の国・地域別および業種別などの投資額の詳細を発表していない(2013 年 5 月現在)。このため、2011 年末時点の投資残高 551 億 1,390 万ユーロの内訳でみると、EU15 からの投資額は全体の約 80%を占めており、上位 3カ国はオランダ(119 億 8,200 万ユーロ)、オーストリア(96 億 6,700 万ユーロ)、ドイツ(62 億 7,200 万ユーロ)の順である。

2012 年発表の主な投資案件は次のとおり。ダチアは、アルジェシュ県のみオベニ工場に新しく車体組み立てライン、溶接ロボットなど新設備を導入したと発表した(2012 年 10 月)。2012 年の投資額は 2 億 5,000 万ユーロで、乗用車の生産台数は約 30 万台だった。2012 年 7 月から新エンジン「H4Bt」の生産を開始し、新モデルに搭載している。フォード(米国)は、南西部のクライオバで、新世代環境エンジン「エコブースト」(排気量 1000cc)を 2012 年 4 月に、小型バン「B マックス」を 2012 年 6 月にそれぞれ量産を開始した。2012 年の同社の乗用車生産台数は約 3 万台だった。

「B マックス」の生産開始に伴い、キルヒホフ・オートモーティブ(ドイツ)は、1,200 万ユーロを投じて、クライオバにボディ部品を生産工場を開設した(2012 年 4 月)。また、マグナ・インターナショナル(カナダ)は、2,000 万ドル(報道ベース)を投じて、クライオバに生産工場を開設した(2012 年 10 月)。フォード・ルーマニア向けにバンパーを生産するほか、在欧自動車メーカー向けにトリム部品を供給する。

表 5 ルーマニアの主要対内直接投資案件(2012 年)

(単位:100 万ユーロ)

業種	企業名	時期	投資額	概要
自動車	ダチア(フランス)	2012 年	250	生産工場へ新設備を導入
自動車部品	メトエア・インターナショナル・ホールディングス(南アフリカ共和国)	2012 年 3 月	42.8	自動車用バッテリーメーカーのロムバットの株式 99%を買収
自動車部品	コンチネンタル(ドイツ)	2012 年 11 月	20	タイヤ、パワートレイン等の研究開発(R&D)拠点を建設
石油	OMV ペトロム(オーストリア)	2012 年 6 月	100※	ペトロブラジ石油精製所を近代化
農業	アメロパ・ホールディング(スイス)	2012 年 6 月	54※	化学肥料会社アゾムレシュを買収
木材	ホルツインダストリ・シュバイクホファー(オーストリア)	2012 年 11 月	40	暖房施設および生産施設を建設
病院	ポリクリニコ・ディ・モンツァ(イタリア)	2012 年 7 月	40※	病院を建設
病院	メディカパー(スウェーデン)	2012 年 3 月	20※	病院を建設

〔注〕※報道ベース。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

エネルギーでは、OMV ペトロム(オーストリア)がブラホバ県のペトロブラジ石油精製所の近代化に1億ユーロ(報道ベース)を投資した(2012年6月)。OMV ペトロムおよびエクソンモービル(米国)が黒海沿岸の海底天然ガス田でガス貯留層を発見し、2012年12月に3次元地震探査を開始した。また、両社は黒海メディア鉱区の権益65%の買収について、スターリング・リソーシズ(カナダ)と交渉に入った(2012年10月)。投資額は推定2,925万ドル。再生可能エネルギーでは、CEZ(チェコ)によるコンスタンツァ県での二つの風力発電所が完成し、同社は試運転を開始した(2012年11月)。投資額は約11億ユーロで、設備容量において欧州最大級の陸上風力発電所となった。病院では、私立病院ポリクリニコ・ディ・モンツァ(イタリア)が、4,000万ユーロを投じて(報道ベース)、ブカレストに心臓血管外科医院を開設した(2012年7月)。

2013年発表の投資案件では、ダイムラー(ドイツ)が設立・拡大した子会社スター・トランスミッションの生産能力を3億ユーロの追加投資で拡張すると発表した(2013年4月)。同社はルーマニア国内2カ所に生産工場を持ち、ダイムラー向けにエンジン部品、ギアボックス等を生産している。

一方、撤退企業もある。2007年に進出したサムスン電子へのサプライヤー企業ハニル・エレクトロニクス(韓国)はビホール県ビハリアの生産工場を閉鎖した。同工場ではテレビおよびホームシアター機器を組み立てていた。2011年の売上高は1億6,300万レイ(3,845万ユーロ)。

■対日貿易赤字は輸出増により47%減

2012年の対日貿易は、ルーマニアの輸出が前年比

24.5%増の2億1,250万ユーロ、輸入は0.1%増の2億6,030万ユーロとなり、貿易赤字は前年比46.6%減の4,780万ユーロだった。

輸出を品目別にみると、木材・同製品、木炭(構成比65.8%)は前年比8.2%増だった。また、穀物(18.0%)はトウモロコシの輸出が2.2倍に増加したため、全体で2.1倍となった。

輸入を品目別にみると、機械・電気機器(構成比43.8%)は電気機器の前年比20.2%減を受けて全体で9.6%減となった。輸送用機器(24.0%)は、同品目の約6割を占める自動車部品が4.3%増加したものの、乗用車の14.1%減少が響き、全体では4.0%減となった。これに対して、金属・同製品(12.6%)は、2011年には輸入されていなかった鋼管が輸入されるなど、鉄鋼製品が74.5%と大幅増となったため、全体で60.1%増となった。

■一部の日系製造業は増産態勢

2012年の日系製造業の新規進出は1社で、三菱ケミカルホールディングスが2012年12月、医薬品カプセル製造のクオリカプス(米国)を買収した。その結果、クオリカプスが所有していたルーマニアの3工場を傘下に収めた。ジェトロ・ブカレスト事務所の調査によると、2013年5月末時点の日系製造業は本社ベースで17社、現地法人ベースで24社、雇用人数は合計で約3万2,000人であった。

既に国内に生産工場を持つタカタ(エアバッグ)は2012年5月に、また、住友電装(ワイヤハーネス)は2012年4月に、それぞれ生産工場を一つ追加した。たばこ製造のJTIは2012年7月、2,500万ユーロ(報道ベース)を投入し新しく生産ラインを導入した。

表6 ルーマニアの対日主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位:1,000ユーロ, %)

	輸出(FOB)					輸入(GIF)			
	2011年	2012年				2011年	2012年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
木材・同製品、木炭	129,249	139,897	65.8	8.2	機械・電気機器	126,079	114,000	43.8	△ 9.6
植物性生産品	18,338	38,763	18.2	111.4	電気機器	87,215	69,618	26.7	△ 20.2
穀物	18,080	38,172	18.0	111.1	原子炉・ボイラー・機械類	38,864	44,382	17.1	14.2
繊維・衣料品	823	4,697	2.2	471.0	輸送用機器	65,005	62,373	24.0	△ 4.0
衣類・同付属品	677	3,643	1.7	438.4	自動車・トラクター	64,992	62,373	24.0	△ 4.0
機械・電気機器	4,544	4,649	2.2	2.3	金属・同製品	20,472	32,784	12.6	60.1
原子炉・ボイラー・機械類	1,839	2,816	1.3	53.2	鉄鋼製品	9,152	15,974	6.1	74.5
電気機器	2,706	1,833	0.9	△ 32.3	金属製の工具	924	5,950	2.3	543.8
履物・帽子・傘	3,284	4,166	2.0	26.9	鉄鋼	4,325	5,333	2.0	23.3
履物・ゲートル	3,282	4,164	2.0	26.9	金属製品	4,084	5,282	2.0	29.3
金属・同製品	1,902	4,089	1.9	115.0	プラスチック・ゴム・同製品	26,363	30,212	11.6	14.6
鉄鋼製品	469	3,101	1.5	560.9	ゴム・同製品	10,591	15,165	5.8	43.2
プラスチック・ゴム・同製品	5,598	4,043	1.9	△ 27.8	プラスチック・同製品	15,772	15,047	5.8	△ 4.6
ゴム・同製品	3,165	2,565	1.2	△ 18.9	光学機器・精密機器	8,806	8,333	3.2	△ 5.4
化学製品	2,218	3,033	1.4	36.7	化学製品	7,949	6,447	2.5	△ 18.9
医療用品	2,133	2,714	1.3	27.2	繊維・衣料品	3,322	3,832	1.5	15.3
動物性生産品	1,612	1,953	0.9	21.1	人造繊維の長繊維・織物	1,577	2,301	0.9	45.9
合計(その他含む)	170,717	212,502	100	24.5	合計(その他含む)	260,161	260,299	100.0	0.1

[出所] ルーマニア国家統計局データから作成